東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第3号

特集　大学教育と学習の革新（趣　旨）

　今，大学における教育と学習の革新が求められている。大学教育には，教養ある市民の育成，資格を伴う専門職の育成，研究者の再生産，文化の伝承，人格の涵養など多様な役割が期待され，学士課程教育から大学院教育まで，さまざまな知識と活動が配置されることになった。

しかし，学生が，単なる知識としてではなく，大学に配置された多様な知を深い理解を経て学び身体化し，外部世界に働きかけて新しい価値を創造する主体に成長する方法とメカニズムがなにかは，十分に解明され，共有されているとはいえない。理念においては，教育から学習への転換，正課教育だけでなくキャンパスにおける豊かな経験の創出が語られ，方法においては能動的学習とアクティブ・ラーニング，IT活用による遠隔教育，建設的協働学習など様々なモデルが提唱され，実践されているものの，その有効性については，依然として検証段階にあるといってよいだろう。2000年代に入って，高等教育行政は，GPAやナンバリングなどカリキュラムの技術的構成要素を均質化し，大学教育の質を向上させようとしてきたが，教育の質は，教室における授業やキャンパスにおける学生の学習など，個々の人間における認知・学習活動が基盤であり，革新が求められているのは，システムの領域ではなく，教育活動と学習過程そのものなのである。

19世紀に成立した近代大学は，科学の導入と制度化によって確立し，実験やゼミナールなど教育の革新を伴っていた。現代大学は，その成果に立脚して教育活動を行ってきたが，現在求められているのは，複雑化した現代社会に対応する知を，すべての学生が身に着ける教育と学習の革新である。

このような視点から，紀要の特集を「教育と学習の革新」と設定した。